

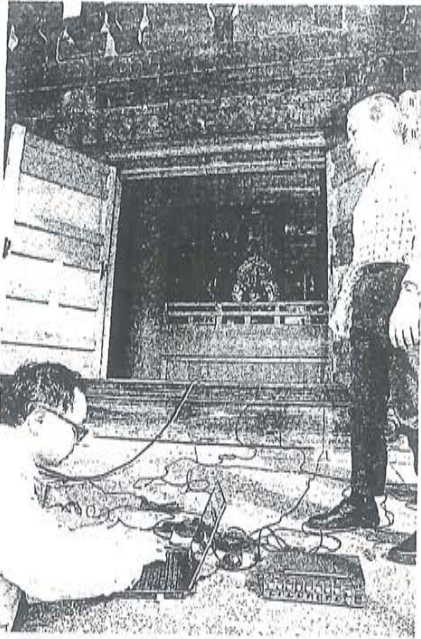
青龍寺「五重塔」

微振動測り耐震診断

県古民家再生協 新手法、県内初

県古民家再生協会(大室幸司代表理事)は3日、青森市の青龍寺にある五重塔で、地盤や建物の微細な振動を計測する新たな手法で耐震診断を実施した。「早稲田式動的耐震性能診断」と呼ばれ、伝統工法の建築物の耐震診断にも有効な手法という。協会によると、この手法での診断は県内初、東北で2例目。

(佐々木大輔)



五重塔に計測器を設置し、耐震診断を行う。熊元教授(右)3日午後、青森市の青龍寺

「早稲田式」の開発者で、伝統構法耐震評価機構理事の毎熊輝記・元早大教授によると、この方式は、地盤や建物内に振動の計測器を取り付け、風や車の通行などで日常的に発生する微振動を実測し、耐震性を評価する手法。図面や目視で安全性を調べる「静的」な手法とは違い、図面が残っていない古民家など伝統工法の建築物

での耐震診断も可能という。

3日は毎熊元教授が現地を訪れ、五重塔内の5層全てに計測器を設置、2時間かけて測定した。耐震結果は10月14日後に出る見込み。

毎熊元教授は、阪神

大震災をきっかけに建物の倒壊被害を減らすと「早稲田式」の手法を開発したという。

今回、元教授の依頼を受けた同協会が仲介役となり、青龍寺五重塔で耐震診断を実施。大

室代表理事の祖父(故)が大工の棟梁(とうりょう)として1996年の五重塔完成に携わった縁もあるという。大室代表理事は「新築に住んでもらえるよう年数の古い建物に長く住みたい人も、安心して住んでもらえるよう」と話した。